

全交流電源喪失時（地震及び津波の重畳）の移動ルートと作業エリア図（復水ピットへの海水給水）

ホイールローダーにより地震・津波によるがれき等の除去を行った後のアクセスルートを示す。

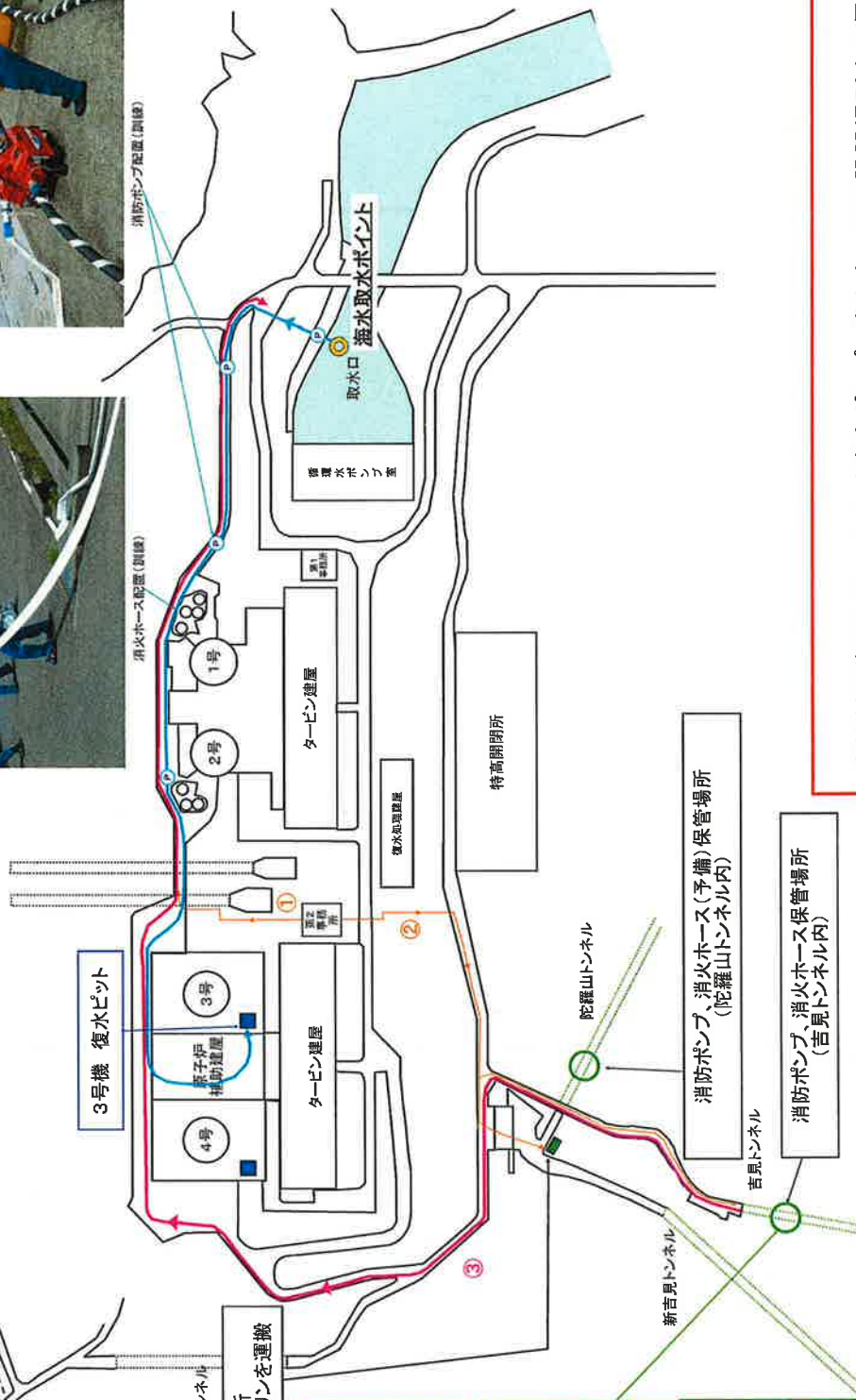
全交流電源喪失時に蒸気発生器および使用済燃料ピットへの給水源となるタンク
（地震・津波重畳時には期待しない）



消防ポンプ配置(訓練)



消火ホース配置(訓練)



資機材運搬用トラック

資機材運搬用トラック保管場所
消防ポンプ、消火ホース運搬後にガソリンを運搬



吉風トンネル入口



消防ポンプの保管状況



消火ホースの保管状況

- ① ホース等敷設要員移動経路
- ② 資機材運搬要員移動経路
- ③ 消防ポンプ・消火ホース箱運搬
- 消防ポンプ・消火ホースの設置ルート

0 100 200m

新吉風トンネル
吉風トンネル
陀羅山トンネル

消防ポンプ、消火ホース(予備)保管場所
(陀羅山トンネル内)

消防ポンプ、消火ホース保管場所
(吉風トンネル内)

特高閉閉所

海水取水泵

取水口

海水取水ポイント

復水ポンプ室

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

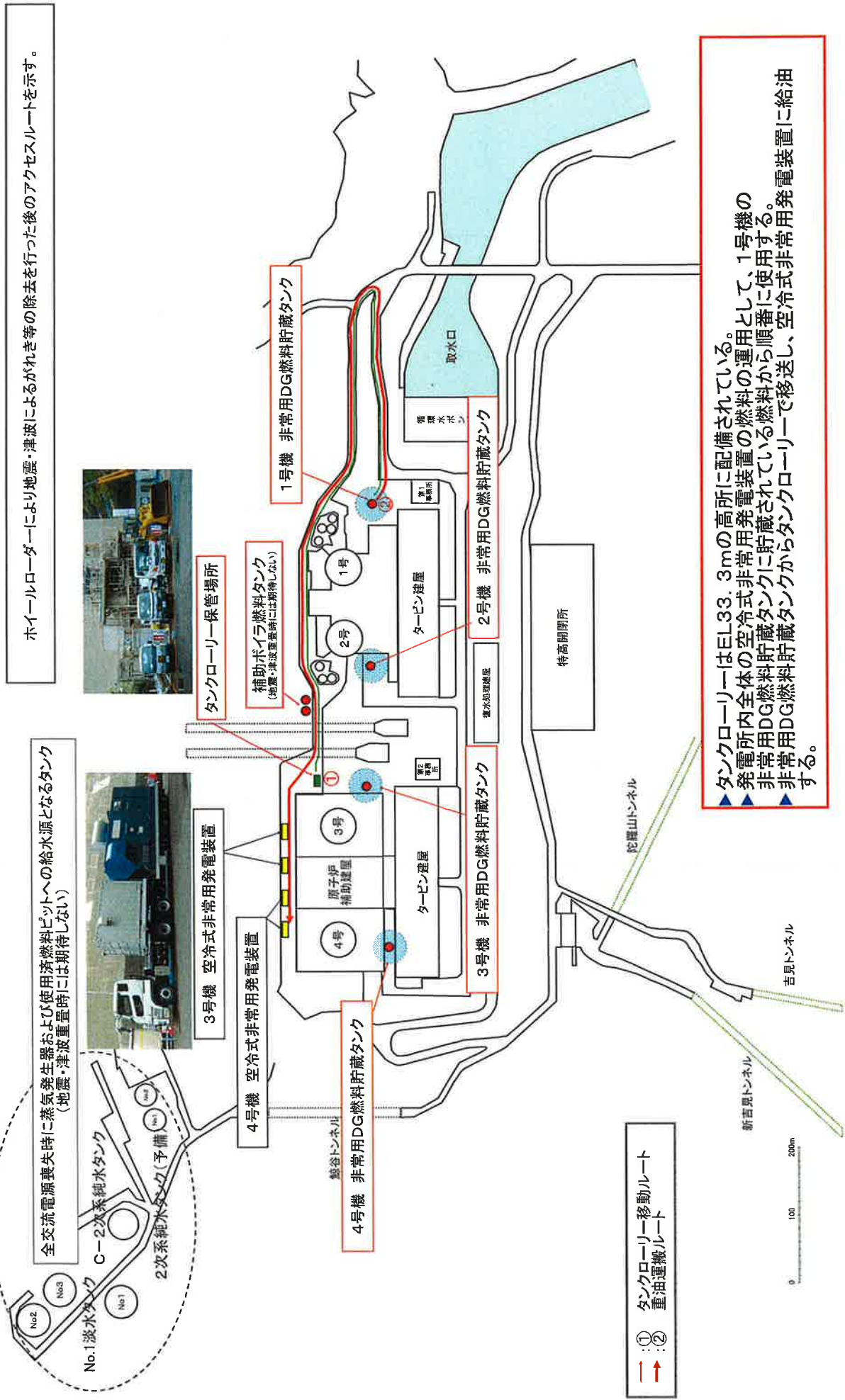
タービン建屋

タービン建屋

タービン建屋

- ▲ 資機材運搬用トラックにより消防ポンプ、消火ホースの設置場所まで運搬し取水口から復水ピットまで消防ポンプ、消火ホースを設置する。
- ▲ 海水を消防ポンプ、消火ホースにより復水ピットに補給

全交流電源喪失時（地震及び津波の重畳）の空冷式非常用発電装置への燃料（重油）補給ルート図

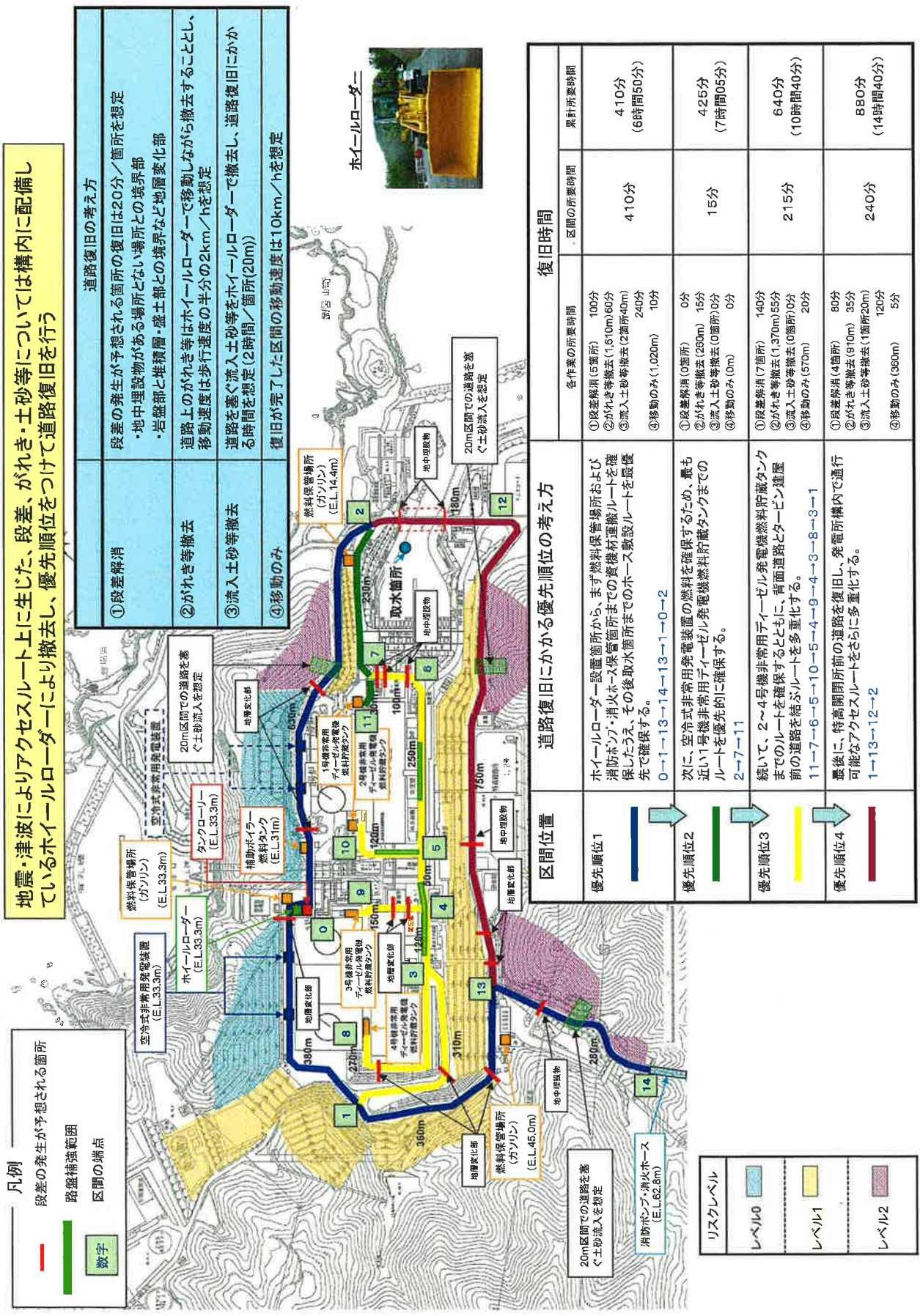


ホイールローダーにより地震・津波によるがれき等の除去を行った後のアクセスルートを示す。



▲タンクローリーはEL33. 3mの高所に配備されている。
▲発電所内全体の空冷式非常用発電装置の燃料の運用として、1号機の非常用DG燃料貯蔵タンクに貯蔵されている燃料から順番に使用する。
▲非常用DG燃料貯蔵タンクからタンクローリーで移送し、空冷式非常用発電装置に給油する。

全交流電源喪失(地震・津波の重畳)におけるアクセスルートの確保について(時間評価)



地震・津波によりアクセスルート上に生じた、段差、がれき・土砂等については構内に配備しているホイールローダーにより撤去し、優先順位をつけて道路復旧を行う

道路復旧の考え方	
① 段差解消	段差の発生が予想される箇所の復旧は20分/箇所を想定 ・地中埋設物がある場所とない場所との境界部 ・岩盤部と堆積層・盛土部との境界など地層変化部
② がれき等撤去	道路上のがれき等はホイールローダーで移動しながら撤去することとし、移動速度は歩行速度の半分の2km/hを想定
③ 流入土砂等撤去	道路を塞ぐ流入土砂等をホイールローダーで撤去し、道路復旧にかか
④ 移動のみ	復旧が完了した区間の移動速度は10km/hを想定



復旧時間	
区間の所要時間	区間の所要時間
各作業の所要時間	区間の所要時間
① 段差解消(5箇所) 100分 ② がれき等撤去(1,610m)60分 ③ 流入土砂等撤去(2箇所)40分 ④ 移動のみ(1,020m) 10分	410分
① 段差解消(0箇所) 0分 ② がれき等撤去(250m) 15分 ③ 流入土砂等撤去(0箇所)0分 ④ 移動のみ(0m) 0分	15分
① 段差解消(7箇所) 140分 ② がれき等撤去(1,370m)55分 ③ 流入土砂等撤去(0箇所)0分 ④ 移動のみ(570m) 20分	215分
① 段差解消(4箇所) 80分 ② がれき等撤去(910m) 35分 ③ 流入土砂等撤去(1箇所)20分 ④ 移動のみ(360m) 5分	240分
累計所要時間	累計所要時間
	410分 (6時間50分)
	425分 (7時間05分)
	640分 (10時間40分)
	880分 (14時間40分)